

日本ワイルド研究書誌 (追加増補版)

佐々木 隆

目 次

はじめに	3
凡例	4
掲載内容について	4
参考資料	5
1 単行本編	7
2 定期刊行物・雑誌編	3 1 9
3 ワイルド劇上演年表（コンサート等含む）	4 7 5
4 ワイルド研究・周辺理解早見表	4 8 9
(1) ワイルド研究	4 9 0
(2) ワイルド事典・書誌	4 9 2
(3) 博士論文	4 9 3
(4) 『サロメ』に関する研究	4 9 4
(5) 詩人としてのワイルド	4 9 6
(6) 世紀末・デカダンス	4 9 7
(7) マックス・ノルダウ	4 9 9
(8) 唯美主義	4 9 9
(9) ラファエル前派	5 0 1
(10) ジョン・ラスキン	5 0 2
(11) ウィリアム・モリス	5 0 3
(12) ウィリアム・モリス書誌	5 0 4
(13) オーブリー・ビアズリー	5 0 4
(14) 美学	5 0 5
(15) 日本の美学受容史	5 0 6
(16) ダンディズム	5 0 7
(17) 同性愛	5 0 8
(18) 日本西欧近代心理学受容史	5 0 9
(19) アンドレ・ジイド	5 0 9

(20) 本間久雄・	5 1 0
(21) 芥川龍之介・	5 1 1
(22) 谷崎潤一郎・	5 1 2
(23) 佐藤春夫・	5 1 3
(24) 三島由紀夫・	5 1 3
(25) 比較文学・	5 1 5

は じ め に

オスカー・ワイルド (Oscar Fingal O'Flahertie Wills Wilde, 1854-1900)の生誕 160 年を迎えたこともあり、今回、『日本ワイルド研究書誌 (増補版)』(多生堂、2014 年 10 月)の追加増補版を刊行することとした。明治期及び大正期の資料の見直しと最新の資料を加えたものである。これまで確認できなかったものもリサーチを進め、より内容を充実させた。取り上げている資料は日本国内で発行されたものを原則にした。

今回の追加増補にあたっては科学研究費による報告書や博士論文もできるだけ取り上げた。いずれも「1 単行本編」のところに反映させた。「2 定期刊行物・雑誌編」はさらに調査を継続し、掲載使用を増補した。また、日本ワイルド協会が発行している学会誌等も別置せず、ここに掲載した。「3 ワイルド劇上演年表 (コンサートを含む)」ではバレエ、オペラ、コンサートなども分かった範囲で積極的に取り上げた。「4 ワイルド研究・周辺理解早見表」についてはこれまで追加情報が重複していたため、新たに別置した。本書を利用する上で、まずこの部分を最初に見てから活用するのも一つの方法である。

なおこれまで取り上げていた「日本ワイルド協会の活動」は日本ワイルド協会のホームページ (<https://www.wilde-sj.org/>) が整備されたため、除外することとした。

日本におけるワイルド書誌を本格的に扱っているものはかなり限られているのが現状である。私見では、外国文学者の研究状況は、翻訳全集、専門学会、書誌の整備があつて初めて基礎研究が成立するのではないかと考えている。特に日本の場合には書誌の整備が異常なほど遅く、また軽視されているのではないだろうか。その意味で本書が担う役割は大きいと考えている。研究には先行研究への敬意は欠かせないものと思っている。先行研究なしに現在の研究が成り立たない以上、その先行研究にあらためて光を当てることは原点に立ち返るものであろう。ネット上のアーカイブも整備されて来たが、決して万能ではない。最後に行く着く所は現物の確認である。2012 年 4 月に早稲田大学坪内博士記念演劇博物館招聘研究員となり、早稲田大学中央図書館や演劇博物館の書庫へも入庫による調査や確認ができるようになったことは大きな前進である。ワイルド研究の原点ともいふべき早稲田大学の資料を最大限に利用できることはありがたい限りである。

また、2022 年 12 月 3 日の日本ワイルド協会の大会では特別講演「オスカー・ワイルドと私〜日本ワイルド協会、ワイルド受容研究、大学教育〜」(実践女子大学:渋谷)をしたこともあり、一念発起して今回の新しい増補の機会となったことは紙面を借りて深く感謝申し上げたい。

今回の調査でもまだまだ未見や所在不明の資料もある。こうした資料について今後も調査を継続的に言い、より精度の高いワイルド情報の作成に励んだ行きたいと思う。なお、基本的な凡例等は『日本ワイルド研究書誌』に準じている。

2022 年 10 月

佐々木 隆

凡 例

(例)

- ①1909 年 6 月 ②島村瀧太郎 ③『近代文藝之研究』 ④早稲田大学出版部
⑤歐洲近代の絵画を論ず
⑥pp. 134-187
⑦*周辺理解のよい参考となる。

- ① 発行年月。西暦表記。必要に応じて元号表記を併記した。
② 著者名(編者名)。本文が英文の場合には英文表記。
③ 書名。定期刊行物・雑誌等の場合には雑誌名。本文が英文の場合には英文表記。
④ 発行所。
⑤ 論文名あるいは掲載内容。
⑥ ページ数。必要に応じて*印にてコメントやその他の情報、本文からの引用などを一部紹介した。翻訳本の場合には原著書や原題などをできるだけ併記した。

*尚、内容が英文の場合には、②③⑤ともに英文表記とした。また、表記方法については、おおきな支障がない限り、その一部を現代の表記方法に改めた。

掲載内容について

- 1 オスカー・ワイルドに関連した単行本、定期刊行物、雑誌等を中心に 2022 年 12 月までのものを原則として取り上げた。
- 2 「単行本編」「定期刊行物・雑誌編」では研究に関するものを中心に取り上げた。なお、日本「単行本編」では学位論文(博士)、科学研究費補助金成果報告書なども適宜取り上げた。雑誌特集は単行本でも取り上げた。
- 3 これまで取り上げていた日本オスカーワイルド協会が発行していた『会報』『WILDE NEWSLETTER』『オスカー・ワイルド研究』については別置せず「定期刊行物・雑誌編」に吸収した。
- 4 オスカー・ワイルドに言及していない資料についても必要に応じて「*周辺理解のよい参考となる」、「*時代背景のよい参考となる」として取り上げた。
- 5 現物の確認のとれたものについては、必要に応じてページ数を明記した。なお、未確認のものについては*印にてコメント等を加えた。
- 6 新たに「ワイルド研究・周辺理解早見表」を設けて、できるだけ重複した掲載を避けた。

参考資料

本書を作成にするにあたっては、これまでの書誌等を参考にした。そのおもな一覧は以下の通りである。また、国立国会図書館、早稲田大学中央図書館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、新国立劇場情報センター、福島県歴史資料館、各大学図書館等の資料を利用して戴いた。

本間久雄「参考書目の事」(『英国近世唯美主義の研究』東京堂、1934年5月)

平井博「Bibliography of the Reference Books on Oscar Wilde」(『福島大学学芸学部論集』第5集、1954年3月)

平井博「参考文献書誌」(『オスカー・ワイルドの生涯』松柏社、1960年4月)

平井博「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌(その1)」(『福島大学学芸学部論集』人文科学、第13集の2、1962年3月)

平井博「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌(其二)」(『福島大学学芸学部論集』人文科学、第14集の2、1963年3月)

井村君江「日本に於けるオスカー・ワイルド書誌」(『鶴見大学紀要』第2部、外国語・外国文学編、第13号、1976年3月)

平井博「日本における Oscar Wilde 書誌」(『オスカー・ワイルド考』松柏社、1980年7月)

須永朝彦「泰西少年愛、同性愛文献一覧」(須永朝彦／南條竹則訳『泰西少年愛読本』新書館、1989年4月)

実践女子大学図書館編『実践女子大学図書館所蔵 オスカー・ワイルド文献目録』実践女子大学図書館、1989年11月)

井村君江「日本における『サロメ』書誌<明治・大正時代>」(『「サロメ」の変容——翻訳・舞台』新書館、1990年4月)

及川和夫「イギリス世紀末関係書誌」(出口保夫編『世紀末のイギリス』研究社、1996年1月)

川戸道昭、榊原貴教編「明治翻訳文学年表 ワイルド編」(『ワイルド集』明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》第10巻、大空社、1996年10月)

佐々木隆「オスカー・ワイルド書誌」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店、1998年10月)

永山多貴子編「ラファエル前派関連年表」／五十嵐卓編「参考文献」(ニューアル、河村錠一郎監修『ラファエル前派展』(カタログ)(アルティス、2000年4月)

川戸道昭・中林良雄・榊原貴教編『大正期翻訳文学画像集成』(第6巻 ワイルド集)(ナダ出版センター、2003年)(CD-ROM)

川戸道昭・榊原貴教編『児童文学翻訳作品総覧』(第2巻)(ナダ出版センター、2005年6月)

佐々木隆『日本ワイルド総覧』(イーコン、2007年2月)

佐々木隆『日本ワイルド総覧(増補版)』(イーコン、2008年2月)

佐々木隆『日本ワイルド研究書誌』(イーコン、2009年2月)

佐々木隆『日本ワイルド研究書誌(増補版)』(イーコン、2014年9月)

1 単行本編

- 1904年
[明治 37] チャールズ・ミルス・ゲーシー／正宗忠夫抄訳『文学批評論』（早稲田卅七年度文学教育科第二学年講義録）早稲田大学出版部
- Wilde, O. 19 th Century. :123, 435 the True Function and Value of Criticism. (Reprinted, under the title Critic and Artist, in Intentions. New York: 1891.)
- 「批評家たる資格は、廣く批評及び批評に関したる諸題目を有し、同感して味ふ能力を有し、且つ恣まゝならぬも、個人的に信ぜる判断の標準を有するにあり」 p. 66
- *Charles Mills Gayley. *An Introduction to the Methods and Materials of Literary Criticism*の翻訳。
- *正宗忠夫は正宗白鳥のこと。
- *「正宗白鳥 近代日本人の肖像」
(<http://www.ndl.go.jp/porttrait/datas/330.html>) もよい参考となる。
- 1906 年 7 月
[明治 39] 島村抱月『滞欧文談』春陽堂
- *周辺理解のよい参考となる。
- 1902 年～1905 年までの欧州留学の英国文芸壇印象記。
- *本間久雄「島村抱月」(『作家論』早稲田大学出版部 1951 年 10 月)、岩佐壮四郎「抱月の世紀末」(『世紀末の自然主義—明治四十年代文学考—』有精堂出版 1986 年 8 月)と岩佐壮四郎『抱月のベル・エポック』(大修館書店 1998 年 5 月)、岩佐壮四郎『島村抱月の文藝批評と美学理論』(早稲田大学出版部、2013 年 5 月) もよい参考となる。
- *『抱月全集』には以下のものがある。
- 1919 年～1920 年 島村抱月『抱月全集』(全 8 巻) 天佑社
- 1928 年～1929 年 島村瀧太郎『抱月全集』(全 4 巻) 博文館
- 1994 年 10 月 島村抱月『抱月全集』(全 8 巻) 日本図書センター (天佑社版の複製本)
- *「島村抱月 近代日本人の肖像」
(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/277.html>) もよい参考となる。
- 1906 年 9 月 マックス・ノルダウ／剣菱 (正宗忠夫) 訳『パラドックス』読売新聞社
- 1 小説と人生, pp. 1-15
 - 2 恋愛科学, pp. 16-29
 - 3 厭世と楽天, pp. 30-48
 - 4 多数と少数, pp. 49-70
 - 5 成功の秘密, pp. 71-99
 - 6 真理は何処, pp. 100-115
 - 7 感謝論, pp. 116-128
- *Max Nordau. *Paradoxes* の翻訳。

* 剣菱（正宗忠夫）は正宗白鳥のこと。

* ワイルドへの言及はないが、ノルダウの文献として取り上げた。ノルダウの翻訳がこの時期に出版されていたことは興味深い。

* 「正宗白鳥 近代日本人の肖像」(<http://www.ndl.go.jp/porttrait/datas/330.html>) もよい参考となる。

1907 年 1 月 マックス・ノルダウ／桐生悠々訳『現代文明と批判』隆文館
[明治 40] 現代の苦悶, pp. 1-42

末世論

1 国民の黄昏＝末世, pp. 43-57

2 各事物の上の現れたる『末世』の病状, pp. 58-77

3 末世に対する診断, pp. 78-117

4 推原論, pp. 117-139

成効学校, pp. 140-174

婚姻の偽, pp. 175-252

* 時代背景のよい参考になる。

* Nordau, Max. *Conventional Lies of Our Civilization* の翻訳。

* ワイルドへの言及はないが、ノルダウの文献として取り上げた。ノルダウには以下の翻訳もある。

1906 年 9 月 剣菱（正宗忠夫）訳『パラドックス』読売新聞社

1914 年 3 月 大日本文明協会訳『現代の墮落』大日本文明協会事務所

1908 年 10 月 生田長江『外国文学研究法』新潮社

[明治 41] * 「また最近に我が文壇などででもやかましく云ふオスカー・ワイルドの、イエツなど、随分色々な人もある。けれど、しかしスキンバアン以後にスキンバアンを凌ぐほどの人はまだ出ない。」(p. 211)

1909 年 6 月 島村瀧太郎『近代文藝之研究』早稲田大学出版部

[明治 42] 欧洲近代の絵画を論ず, pp. 134-187

* 中村義一「島村抱月とプリラフェエルティズム—明治美術におけるイギリス 19 世紀思潮特にプリラフェエルティズムの影響について (3)」(『宮崎大学教育学部紀要』芸能、第 28 号、宮崎大学教育学部) はよい参考となる。

英国の尚美主義, pp. 581-594

* 「是れから述べますのは英国尚美主義の話であります、尚美主義はまた唯美主義、審美主義とも訳しまして、英語のイーセチシズム Aetheticism がそれです。即ち美といふ事を中心として一切の事を判断するものです。」

(本文冒頭)

* 初出は『明星』(未歳第 9 号、1907 年 9 月)。

1910 年 6 月 中村吉蔵『欧米印象記』春秋社

[明治 43] ミス・モ・ド・アランのサロメ踊り, p. 272

＊『サロメ』観劇の記事。

1911年 1月 西田幾多郎『善の研究』弘道館

[明治44]

第4編 宗教

第4章 神と世界

＊「余はここにおいてオスカル・ワイルドの『獄中記』 De Profundis の中の一節を想い起こさざるをえない。基督は罪人をば人間の完成に最も近き者として愛した。面白き盗賊をくだくだしい正直者に変ずるのは彼の目的ではなかった。彼はかつて世に知られなかった仕方において罪および苦悩を美しき神聖なる者となした。(中略) 例の放蕩子息が跪いて泣いた時、かれはその過去の罪惡および苦悩をば生涯において最も美しく神聖なる時となしたのである。と基督がいわれるであろうといっている。ワイルドは罪の人であった、故に能く罪の本質を知ったのである。」
(p. 255)

＊初出は『丁酉倫理講演集』(第82集, 1909年7月)。

＊現在比較的簡単に入手できるものは以下のものがある。

1970年 2月 西田幾多郎『西田幾多郎全集』(第1巻) 岩波書店

1979年 10月 西田幾多郎『善の研究』(岩波文庫) 岩波書店 (改版)

1998年 2月 大橋良介編『西田哲学選集』(第1巻) 燈影舎

＊兼武進「ワイルドの『獄中記』と西田幾多郎の『善の研究』」(『跡見学園短期大学紀要』, 第30集, 1994年1月) はよい参考となる。

＊「日本における『獄中記』の波動」に関しては1975年6月の井村君江「オスカー・ワイルド」(福田光治他編『欧米作家と日本近代文学』5, 英米篇2, 教育出版センター) がよい参考となる。

1911年 3月 樋渡正一『今日の書面』富田文陽堂

ワイルドのシェラードに答へた書面, pp. 289-291

＊「一八九五年四月十六日ホロウエイにて。親愛ある。ロバート老兄よ。敢為磊落なるわが友よ。予は驚嘆すべき新消息に満たされた貴翰を非常に歓迎したが。が、自分の身は悩んで、物悲しい。唯ある。フレッド、ドーグラスの日毎の見舞が僅に自分に新しい生命を鼓舞するばかりなるが、自分はこれさへも一種の屈辱と悲劇的の状態とのみを眺めてゐる。サラーは絶望と思ふが、老兄が任侠な友誼——實に麗はしい任侠な友誼な全世界の黄金にも勝るものである。」

＊原文は以下の通りである。

「16 April 1895

HM. Prison, Holloway

My dear Robert, You good, daring reckless friend! I was delighted to get your letter, with all its wonderful news. For myself, I am ill——apathetic. Slowly life creeps out of me.

Nothing but Alred Douglas' s daily visits quicken me into life,
and even him I only see under humiliating and tragic conditions.
Don' t fight more than six duels a week! I suppose Sarah is
hopeless; but your chivalrous friendship——is worth more than all
the money in the world.

Ever yours

OSCAR]

(Hart-Davis, Rupert, editor. *The Letters of Oscar Wilde* (London:

Rupert Hart-Davis, 1962. p.381.)

1912 年 1 月 小山内薫『演劇新声』東雲堂

[明治 45] オスカー・ワイルドの諸作, pp.130-139

1912 年 2 月 津金馨『欧米近代文豪美文集』実業之日本社

WILDE, pp.200-201

ワイルド, pp.200-201

随想, pp.200-209

**De Profundis* の紹介。

1912 年 3 月 厨川辰夫『近代文学十講』大日本図書

第十講 非物質主義の文芸 (其二)

耽美派と近代の詩人, pp.528-542

*「第二講 近代の生活」には「1 世紀末」などもあり、全般にわたって参考となる文献である。

*『厨川白村全集』(第 1 巻, 改造社, 1929 年 6 月) にも所収されているが、文庫本などにもなっている。

*同著者の「近英詩人の時勢に対する関係を論ず」(『帝国文学』第 13 巻第 10 号～第 12 号、1907 年 10 月～12 月) は、当時の日本の世紀末思想のとらえ方を知るよい参考となる。

1912 年 10 月 新渡戸稲造『世渡りの道』実業之日本社

[大正元] 第 5 章 他人の言行に対する批判, pp.63-86

1913 年 2 月 本間久雄『高台より』(現代文芸叢書第 21 編) 春陽堂

[大正 2] オスカア・ワイルド論, pp.1-75

正宗白鳥論, pp.77-109

鈴木三重吉, pp.111-128

文壇時評数編, pp.129-224

*「オスカア・ワイルド論」は、『早稲田文学』(第 64 号, 1911 年 3 月) に発表された日本で最初の本格的なワイルド論である。なお、目次には「オスカア・ワイルド」、中扉等では「オスカー・ワイルド」になっている。

1913 年 6 月 西沢富則『欧洲文芸界之逸話』大同館書店

第 3 巻 英吉利之部

(12) オスカーワイルドとユウゴウ, pp. 436-437

1913 年 7 月 アラン・ポオ／谷崎精二訳『赤き死の仮面』泰平館書店

谷崎精二, エドガア・アラン・ポオの作品に就きて, pp. 1-7

*序文に『ドリアン・グレー』とポーの作品との関係が述べられている。

1913 年 7 月 沼波武夫『大疑の前』東亜堂書店

オスカーワイルド, pp. 55-56

*「ワイルド、漢文を能くせざりしを憾む。劃多き漢字列ぶこと、文選の如く目にも面白かりならむ。」

1913 年 9 月 中村吉蔵『劇論と劇評』岡村書店

オペラ、ドラマ及コメデー等に就て, pp. 393-401

1913 年 10 月 アーサー・シモンズ／岩野泡鳴訳『表象派の文学運動』新潮社

*周辺理解のよい参考になる。

*樋口覚訳『象徴主義の文学運動』(改訂版, 国文社, 1982 年 1 月)、前川祐一訳『象徴主義の文学運動』(富山房百科文庫, 1993 年 7 月)、山形和美訳『[完訳]象徴主義の文学運動』(平凡社、2006 年 3 月)も出版されている。岩野美衛『岩野泡鳴全集』(第 14 巻、臨川書房, 1996 年 6 月)にも所収されている。

*Arthur Symons. *The Symbolist Movement in the Literature* の翻訳。

1913 年 11 月 アンドレ・ジード／和気律次郎訳『オスカー・ワイルド』(現代文芸叢書) 春陽堂

序, pp. 1-14

序言, pp. 15-16

緒言, pp. 17-30

オスカー・ワイルド, pp. 33-127

著作目録, pp. 129-152

メレディスの葬式, pp. 153-166

メレディスと其時代, pp. 167-190

青い道化, pp. 191-213

女占方, pp. 215-233

*中島健蔵訳『アンドレ・ジード文芸評論』(上巻, 芝書店, 1933 年 1 月)、『ジード全集』(第 12 巻, 金星堂, 1934 年 9 月)、『アンドレ・ジード全集』(第 7 巻, 建設社, 1935 年 2 月)をはじめ、『ジード』全集に所収されている。

*André Gide の書いた『ワイルドの思い出の記』を Stuart Mason が英訳したものからの重訳。

1913 年 11 月 佐藤繁彦『人格の感化』実業之日本社

第 3 編 人格感化論

第 6 章 芸術家の感化, pp. 291-298

1913 年 12 月 田中栄三『近代劇精通』昶山書店

『フロレンタインの悲劇』『サロメ』『理想の夫』『真面目なることの重要』, pp. 590-598

*作品の梗概。

1914年 3月 ピエール・ルウイイ／矢口達訳『不朽の恋』新陽堂

[大正3]

*矢口達の「はしがき」に『サロメ』への言及がある。

*「不朽の恋」「新しき歓楽」「レーダ」「ホーゼルの丘」「ビブリス」「女と木偶」を所収。

*Pierre Louÿs.

*「余は藝術を至上の實在として取扱ひ、人生を単なる假構の様式として取扱へり・・・・・・・・・・オスカア・ワイルド

およそ十八年前のこと、オスカア・ワイルドがかの妖艶な傑作『サロメ』を、この譯者の作者、ピエール・ルウイイに捧げたといふことです。、、、」（「はしがき」冒頭。後半にも言及箇所がある。）

1914年 3月 ノルドー（マックス・ノルダウ）／中島茂一訳／大日本文明協会編『現代の墮落』

大日本文明協会事務所

第1篇 世紀末

第1章 国民のたそがれ, pp. 1-9

第2章 徴候, pp. 10-18

第3章 診断, pp. 19-40

第4章 病源論, pp. 41-58

第2篇 神秘主義

第1章 神秘主義の心理, pp. 59-79

第2章 ラファエル前派, pp. 80-123

第3章 象徴主義, pp. 124-150

第4章 トルストイ主義, pp. 151-187

第5章 リヒャルト・ワグネル熱, pp. 188-205

第6章 神秘主義の錯誤, pp. 206-224

第3篇 主我狂

第1章 主我狂性の心理, pp. 225-238

第2章 高踏派及悪魔派, pp. 239-246

第3章 頹廢派耽美派, pp. 247-262

第4章 イブセン主義, pp. 263-300

第5章 フリードリヒ・ニーチェ, pp. 301-318

第4篇 写実主義

第1章 ゾラ及ゾラ派, pp. 319-353

第2章 『青年独逸』の瓢竊家, pp. 354-372

第5篇 二十世紀

- 第1章 豫後, pp. 373-383
- 第2章 療法, pp. 384-385
- 付録 非墮落論, pp. 387-455
- *Max Nordau. *Entartung* の翻訳。(英訳では *Degeneration*.)
- *ワイルドのとらえ方が異なるジャクソンの *The Eighteen Nineties* も以下の翻訳がある。
- 1943年 3月 大塚宣也訳『近代英吉利文学論』肇書房
- 1955年 9月 小倉多加志訳『イギリス世紀末文学』千城書店
- 1990年 2月 澤井勇訳『世紀末イギリスの芸術と思想』松柏社
- 1914年 6月 相馬御風『自我生活と文学』新潮社
- ワイルドの『獄中記』を読んで, pp. 262-270
- 1914年 6月 相馬御風, 本間久雄『欧洲近代文学思潮 欧洲近代批評講話』(文学普及会講話叢書)(第2編)文学普及会
- 本間久雄, 欧洲近代批評講話
- 第3章 近代批評一斑
- 第6節 ペイターの快樂主義的批評, pp. 94-112
- 第4章 芸術論上の功利主義, pp. 113-133
- 1914年 9月 貴志二彦『ワイルドの二重人格』(カナメ叢書第6編)梁江堂書店・杉本梁江堂
- ワイルドの生涯
- 1 天才の生ひ立ち, pp. 1-17
 - 2 天才の爛熟, pp. 17-30
 - 3 天才の頹廢, pp. 30-48
- ワイルドの思想
- 1 初期の思想, pp. 49-61
 - 2 後期の思想, pp. 61-68
- ワイルドの人格
- 1 彼の性格, pp. 69-80
 - 2 彼の二重人格, pp. 80-92
- *書名については、目次・奥付と本文等と不一致があるため、国立国会図書館の和図書名の登録に従った。
- *「二重人格は主として其人の『思想』と其人の『社会本能』と『生存本能』との間に起こるのである。」(p. 84)
- *本書は平井博・井村君江のワイルド書誌にも紹介されていなかったもので、石崎等「ワイルドと大正文学」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店, 1997年10月)で初めて紹介された。
- 1914年 12月 島村抱月編『近代名文評釈』(文学普及会講話叢書)(第8編)文学普及会
- 12 ワイルド

新しき官能の世界, pp. 112-118

*巻末に *The Picture of Dorian Gray* より英文の一部が掲載されている。

1914 年 12 月 内ヶ崎作三郎『近代文芸之背景』日本学術普及会

*ワイルドへの言及がある。

1915 年 2 月 岩野泡鳴『悪魔主義の思想と文芸』天弦堂

[大正 4] 第 5 章 ボドレルの影響

第 4 節 唯美派詩人

オスカーワイルド, pp. 489-496

第 5 節 『ペン、ペンシル、及びポイズン』, pp. 496-505

第 6 章 結論, pp. 505-509

*岩野美衛『泡鳴全集』(第 16 巻, 国民図書, 1921 年 6 月)、岩野美衛『泡鳴全集』(第 16 巻, 広文庫, 1971 年 11 月)、岩野美衛『岩野泡鳴全集』(第 10 巻, 臨川書房, 1996 年 4 月)にも所収されている

*「自然主義的表象詩論」(『帝国文学』第 13 巻第 4 号, 1907 年 4 月)、「詩人オスカー・ワイルド」(『太陽』第 14 巻第 12 号〜第 13 号, 1908 年 9 月〜10 月)、「私行上から見たオスカー・ワイルド」(『趣味』第 4 巻第 3 号, 1909 年 3 月)もよい参考となろう。

1915 年 2 月 伊達源一郎編『近代文学』(現代叢書)民友社

第 7 章 近代英文学

*ワイルドへの言及は pp. 216-218。

1915 年 2 月 楠山正雄『欧洲近代戯曲史講話』(文学普及会講話叢書)(第 10 編)文学普及会

(7) 新情緒派の戯曲の二

自然主義の変態と古代の復活, pp. 112-123

*「近代耽美派の第一人と推される英吉利のオスカー・ワイルドがある。」(p. 113)

1915 年 4 月 島村民蔵『近代演劇講話』(文学普及会講話叢書)(第 11 編)文学普及会

第 3 章 新浪漫派の劇詩人

オスカー・ワイルド, pp. 63-64

『サロメ』, pp. 64-76

1915 年 7 月 大日本文明協会『近世泰西英傑傳』(第 2 巻)文明書院

オスカー・ワイルド, pp. 501-539

1915 年 8 月 木造竜蔵『奥様の知恵袋』東亜堂書房

オスカー・ワイルドの母との最初の会見, pp. 266-282

1915 年 11 月 賀川豊彦『貧民心理の研究』警醒社書店

*ワイルドへの言及がある。

1915 年 12 月 河上肇『祖国を顧みて』実業之日本社

第2部 日本民族の血と手

2 ワイルドの日本芸術観, pp. 62-64

3 『経済人』, pp. 64-67

1916年 1月 野口米次郎『欧洲文壇印象記』 白日社

[大正5] ワイルド, pp. 149-157

*「オスカー、ワイルドの復活理由」(『慶應義塾学報』第135号, 1908年10月)、「オスカー、ワイルドの一面」(『太陽』第15巻第8号, 1909年6月)、「ワイルドをして語らしめよ」(『文章世界』第10巻第11号, 1915年10月)もよい参考となろう。

1916年 5月 高安月郊『東西文学比較評論』 高安三郎

第1 叙情詩

其4 類唐詩人

ワイルド, pp. 204-207

1916年 5月 田部重治『現代批判』(第1輯) 不老閣書房

ディ・プロファンデスに現はれたるワイルドの思想, pp. 87-110

1916年 6月 小山内薫『演劇論全集』 日東堂

ワイルドの『サロメ』, pp. 66-100

1916年 7月 東草水『翻訳の仕方と名家翻訳ぶり』 実業之日本社

ソドムの娘, pp. 195-212

*森鷗外の『サロメ』の英和文対照例を含む。

1916年 10月 赤木桁平『芸術上の理想主義』 洛陽堂

「遊蕩文学」の撲滅, pp. 1-19

芸術資料としての遊蕩生活, pp. 20-30

予の「遊蕩文学撲滅論」に対する諸家の批評に答ふ, pp. 31-58

*赤木桁平「遊蕩文学の撲滅」(『読売新聞』, 1916年8月6日, 8日)に始まる「遊蕩文学」論争をまとめたもの。

*伊藤整他編『観賞と研究 現代日本文学講座』(評論・随筆2:大正期,三省堂, 1962年7月)はよい参考となる。

1917年 4月 島村抱月『藝術講話』(家庭文庫) 婦人文章刊行会

[大正6] 人生の為の芸術と芸術の為の芸術, pp. 113-131

*上笙一郎, 山崎朋子編纂/島村抱月『藝術講話』(家庭文庫, クレス出版, 2006年7月)に復刻版が出版されている

1917年 6月 本間久雄『近代文学之研究』 北文館

ワイルド傳中の一つの謎, pp. 1-37

獄中のワイルド, pp. 38-63

ワイルドとダヌンチオ, pp. 64-88

谷崎潤一郎論, pp. 161-176

1917 年 10 月 泉斜江編『胡蝶の如く—百家文章』応来社書房

藤代禎輔, オスカー・ワイルドの手紙, pp. 133-136

1917 年 11 月 本間久雄『新文学概論』新潮社

前編 文学通論

第 8 章 文学と国民性

*pp. 110-112 でワイルドに言及。

第 11 章 文学と道德

*pp. 139-140 でワイルドに言及。

後編 文学批評論

第 5 章 鑑賞批評と快樂批評

*pp. 225-226 でワイルドに言及。

1918 年 5 月 本間久雄『近代名著評釈』(文藝研究叢書)(第 4 編) 春陽堂

[大正 7] 第 2 章 近代文学と世紀末的傾向

1 世紀末ということ, pp. 8-16

2 「トスカ」(「世界苦」) の特質, pp. 16-25

3 デカダンの特質, pp. 25-35

第 9 章 オスカー・ワイルド 『ドリアン、グレーの絵姿』

1 唯美主義の特色, pp. 159-162

2 ドリアン・グレーの享樂生活, pp. 162-165

3 『ドリアン・グレー』と道德問題, pp. 165-172

4 『ドリアン・グレー』の味ひ, pp. 172-174

*同著者の『唯美主義者 オスカー・ワイルド』(春秋社, 1923 年 10 月)と『英国近世唯美主義の研究』(東京堂, 1934 年 5 月)は代表的なワイルド研究書。また、『高台より』(春陽堂, 1913 年 2 月)には「オスカー・ワイルド論」が所収されている。

1919 年 1 月 吉田絃二郎『心より心へ』大同館書店

[大正 8] アハサア・シモンズ, pp. 1-27

心霊のそよぎ, pp. 28-42

1919 年 5 月 小日向定次郎『現代英文学講話』研究社

第 1 章 現代美文研究, pp. 14-31

第 6 章 現代劇の勃興, pp. 153-165

第 7 章 新浪漫的戯曲, pp. 166-184

第 8 章 現代劇と其問題, pp. 185-206

*訂正再版(1920 年 3 月)

1919 年 5 月 矢口達訳著『近代英文学概観』敬文堂書店

作家略伝短評

ワイルド, pp. 250-253

*「秘密のないスフィンクス」(pp. 129-138)の翻訳も収録されている。

1919年 6月 賀川豊彦『精神運動と社会運動』警醒社書店

第 7 章 デカダンス派の信仰, pp. 115-127

第 11 章 主観経済学の組織, pp. 293-366

1919年 6月 島村抱月『抱月全集』(第 1 巻) 天佑社

英国の尚美主義, pp. 323-331

*複製本(日本図書センター, 1979年 9月)

1919年 6月 島村抱月『抱月全集』(第 2 巻) 天佑社

芸術と実生活の界に横はる一線, pp. 145-162

『サロメ』上演に就て, pp. 538-539

『サロメ』一面観, pp. 540-542

*複製本(日本図書センター, 1979年 9月)

1919年 7月 ドーラ・アムスデン／藤浪水虎, 尾崎楓水訳『浮世絵の印象』天佑社

*「浮世絵は、色調の大膽、装飾的一致、暗示的画風、線画其他の特色を以て、それぞれ一八六〇年代以後の歐洲画壇に大なる感化或は影響を与へたり。而してその最も著しきを挙げればモネー、ホヰツスラー、デガー、ロセッチ、セザンヌ等の画家を始め、文学者たるゾラ、ボードレール、ゴンクール兄弟、オスカー・ワイルド其他に至るまで凡て熱狂して之を迎へたり。ロダンの如きも之に感激浅からざりしといふ。(而して画風それ自身に如何に影響を与へたるかは、明治四十二年一月故島村抱月氏が早稲田文学に発表せる「歐洲近代の絵画を評す」の論文に書く。就いて見るべし)」(pp. 71-72)

*Dora Amsden. *Impressions of Ukiyo-e* の翻訳。

1919年 9月 榊保三郎『性欲研究と精神分析学』実業之日本社

第 2 編 変態性欲又は病的性欲

第 1 章 性欲の対象の変態

第 2 節 色情倒錯の本質

*ワイルドへの言及は pp. 173-174

*肖像もある。

1919年 12月 西宮藤朝『近代十八文豪と其生活』新潮社

ワイルド

1 彼の生ひ立ち, pp. 88-89

2 彼の唯美主義的生活, pp. 89-91

3 彼の芸術観, pp. 91-95

4 彼の作品, pp. 95-99

5 彼の入獄から死に至る迄, pp. 100-102

1920年 3月 小日向定次郎『現代英文学講話』研究社(訂正再版)

[大正 9] 現代美文研究, pp. 14-18

現代劇の勃興, pp. 155-159

新浪漫的戯曲, pp. 170-181

現代劇と其問題, pp. 196-199

*初版 (1919 年 5 月)

1920 年 3 月 矢口達編『ワイルド全集』(第 1 巻) 天佑社

本間久雄, オスカー・ワイルドの生涯, pp. 1-32

*日本図書センター (1995 年 10 月) に復刻版が出版されている。

1920 年 3 月 厨川白村『象牙の塔を出て』東京朝日新聞社

*ワイルドへの言及がある。

*『厨川白村全集』(第 3 巻, 改造社, 1929 年 2 月) に所収されている。

1920 年 4 月 賀川豊彦『人間苦と人間建築』警醒社書店

*「苦痛の哲学」にワイルドへの言及がある。

1920 年 4 月 アラン・ポオ／谷崎精二訳『赤き死の仮面』言誠社

谷崎精二, エドガア・アラン・ポオの作品に就きて, pp. 1-7

*序文に『ドリアン・グレイ』とポーの作品との関係が述べられている。

1920 年 4 月 松浦善三『帝劇十年史』玄文社

*帝国劇場興業年表が上演のよい資料となる。

1920 年 6 月 沢田順次郎『神秘なる同性愛』(性的叢書) 天下堂

*周辺理解として取り上げた。

1920 年 6 月 本間久雄『生活の芸術化』三徳社

『サロメ』を舞台に見て, pp. 260-268

*モリスへの言及が多数ある。

1920 年 7 月 加藤朝鳥『最新文芸思想講話』新潮社

*ビアズリーの『サロメ』の挿絵。

1920 年 8 月 森口多里『異端の画家』日本美術学院

唯美主義の芸術家

(1) 唯美主義とホヰスラー, pp. 118-131

(2) オスカー・ワイルドの美学, pp. 132-195

*「オスカー・ワイルドの美学」は『早稲田文学』(第 124 号, 1916 年 3 月) に発表された。

*同著者には以下のものがある。

1922 年 11 月 『近代美術十二講』東京堂書店

1937 年 12 月 『近代美術』東京堂

*森口多里については、森口多里先生論集刊行委員会編『森口多里論集』(第一法規、1986 年 3 月)、秋山真一『近代知識人の西洋と日本』(同成社、2007 年 3 月) がよい参考となる。

1920 年 10 月 沢田順次郎『文芸に現はれたる恋愛』(性的叢書) 天下堂

- ＊平井博『オスカー・ワイルド考』（松柏社、1980年7月）より。
- 1920年10月 田中春涯『知識と趣味 人体に関する面白き話』大阪屋号書店
 サロメ劇, pp. 155-161
- 1920年10月 羽田鋭治『性欲と近代思潮』実業之日本社
 第4章 近代文学に現はれたる性慾の威力
 3 サロメ, pp. 66-76
- 1921年4月 ヨハン・アウグスト・ストリンドベルヒ／木村毅訳『靈魂帶』（杜翁記念文庫）春秋社
 [大正10]
 最後の幕, pp. 261-264
 ＊『ド・プロフデス』と『ドリアン・グレー』への言及。
 ＊Johan August Strindberg. *Das Blau Bucla*の英訳 *Zones of Spirits*からの重訳。
- 1921年4月 ハイラム・モダーウエル／大日本文明協会編『近代劇研究』大日本文明協会事務所
 ＊参考として取り上げた。
 ＊Hiram Moderwel. *The Theatre of Today*の翻訳。
- 1921年6月 岩野美衛『泡鳴全集』（第16巻）国民図書
 『悪魔主義の思想と文芸』
 第5章 ボドレルの影響
 第4節 唯美派詩人
 オスカーワイルド, pp. 489-496
 第5節 『ペン、ペンシル、及びポイズン』, pp. 496-505
 第6章 結論, pp. 505-509
 文藝雑録
 私行上から見たオスカーワイルド, pp. 574-584
 ワイルドの社会喜劇『熱心の大切な事』, pp. 584-591
 オスカーワイルドの劇『キインダーミヤ夫人の扇』, pp. 591-601
 ＊『悪魔主義の思想と文芸』（天弦堂、1915年2月）が初版。岩野美衛『泡鳴全集』（第16巻、広文庫、1971年11月）、岩野美衛『岩野泡鳴全集』（第10巻、臨川書房、1996年4月）にも所収されている。
- 1921年6月 岩野美衛『泡鳴全集』（第18巻）国民図書
 評論と批評
 主義と国民性, pp. 82-87
 ＊岩野美衛『泡鳴全集』（第16巻、広文庫、1971年11月）にも所収されている。
- 1921年8月 生田長江、野上白川、昇曙夢、森田草平『近代文芸十二講』新潮社
 第1講 近代思想の諸相

- (1) 近代精神, pp. 2-5
- (2) 浪漫的運動 第一人者ルッソオ, pp. 5-9
- (3) 「世紀の痼疾」—懷疑厭世, pp. 9-11
- (4) 科学的精神, pp. 11-18
- (5) 個人主義, pp. 18-28
- (6) 婦人問題, pp. 28-34
- (7) 機械的人生觀, pp. 35-37
- (8) 唯物的史觀 社会主義, pp. 37-43

第2講 自然主義的精神の解剖

- (1) 自然主義の発生, pp. 46-49
- (2) 世紀末—デカダン, pp. 49-52
- (3) 近代人の生活, pp. 53-63
- (4) 近代人の悲哀と苦悶, pp. 63-71

第5講 新浪漫主義の勃興

- (1) 自然主義と新浪漫主義, pp. 174-181
- (2) 新浪漫主義と印象主義, pp. 181-184
- (3) デカダンの芸術と象徴主義, pp. 184-199
- (4) 享樂主義, pp. 200-205
- (5) 新理想主義—人道主義, pp. 205-213

第11講 英米近代文学

- (5) 愛蘭文学と勃興—劇壇の一瞥, pp. 399-408

*1933年9月 (新潮文庫)。

1921年 9月 竹友藻風『審美論集』金星堂

*ペイターに関する研究書。

*周辺理解のよい参考となる。

1921年 10月 加田哲二『ウキリアム・モリス評傳』下出書房

*周辺理解のよい参考となる。

1921年 12月 中村吉蔵, 河野義博『近代演劇史論』日本評論社出版部

第6章 英国の近代劇

3 ワイルド, pp. 299-301

1922年 2月 高木八太郎『新思想の解剖』(2冊) 教文社

[大正 11] 耽美主義 [エツセチシズム], pp. 1337-1339

オスカー・ワイルド, pp. 1378-1379

1922年 6月 永田龍雄『泰西舞踊図説』高尚堂

*『サロメ』のダンス写真。

1922年 6月 森口多里『美を味ふ心』目黒分店

サロメ第四 (ピアズレー筆), pp. 158-159